平成２９年度　第２回　古賀市健康づくり推進協議会
意見要旨

日　時：平成２９年９月２１日（木）　１９：００～２０：３０
場　所：サンコスモ古賀２階　２０６会議室

＜出席者＞

（委員長）	堤　啓	粕屋医師会
（副委員長）	福岡　綱二郎	粕屋歯科医師会
	岡林　寛	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター　統括診療部長
	松尾　和枝	福岡女学院看護大学　教授
	江口　泰正	産業医科大学　産業保健学部　人間情報科学　准教授
	有田　尚彦	古賀市内高等学校（古賀竟成館高等学校　校長）
	藤原　美喜子	古賀市保育所（園）連盟（鹿部保育所　所長）
	井手野　りつ子	古賀市食生活改善推進会　会長
	大森　睦子	古賀市スポーツ推進委員　代表
	國嵜　和子	古賀市健康づくり推進員　リーダー
	田中　雅文	クロスパル古賀　支配人（コナミスポーツ&ライフ）
	三好　惠美子	中村学園大学栄養科学部栄養科学科　非常勤講師
	平野　昌数	古賀市小中学校校長会（花見小学校　校長）

＜事務局＞
古賀市保健福祉部　予防健診課

＜配布資料＞
・次第
・委員名簿
・「第二次ヘルスアップぷらん～古賀市健康増進推進計画・食育推進計画～」（一部）
・資料１　　保険福祉部関連の個別計画
・資料２　　計画が目指すものと基本的理念
・資料３　　計画の体系
・資料４　　健康づくり 100 人ワークショップの実施状況（報告）
・資料５　　「健康チャレンジ 10 か条（案）
・健康チャレンジ 10 か条 おひろめミーティング案内チラシ
・予防健診課 保健・健康づくり事業概要
・ヘルスプロモーションの概念図

◇議事要旨

１．保健福祉部長あいさつ

○青谷部長

２．第二次古賀市健康増進計画・食育推進計画について

○事務局

配布資料「第二次ヘルスアップぷらん～古賀市健康増進推進計画・食育推進計画～（一部）」について概要説明。

（第１章について）

今回は「食」についての取組を強化し進めることを考えており、健康増進推進計画と食育推進計画を一体として策定することを考えている。また、計画期間について、第一次計画では１０年間としたが、他の計画との連動、社会情勢などを考慮し、平成３０～３５年度の６年間と考えている。（資料１）

（第２章について）

資料１の第２章の説明

○委員

低出生児が多いが、これは何か原因があるのか。

○事務局

高齢出産等が影響していると思われる。

○委員

妊婦の煙状況は調査しているのか。

○事務局

調査はしていないが、窓口で問診等行う中で喫煙されている方はいる。

リスク等を説明すれば止める方もいるが、止めない方もいる。

○委員

Ｐ１０の死因別標準化死亡比について、肝及び肝内胆管の率が全国に比べ高いようだが、産業的な影響はあるのか。

○事務局

そこまでは調査していないのでわからない。

○委員

冒頭に古賀市は医療費が低い状況にある、と説明があったが、委員の皆さんで質問等ないだろうか。

東医療センターは、がんの拠点病院であり、胃がん、大腸がん、肝臓がん、肝及び肝内胆管がん、気管、気管支及び肺がんが多いようだが、何か傾向は。

○委員

東医療センターはもともと療養所であったこともあり、肺がんは多い。胃がん、大腸がんも多くみられる。

○委員

Ｐ３５に健康づくり関連サポーターについて記載があるが、校区によってかなり偏りが見受けられる。このことについて、原因など把握しているのか。また、校区毎の人口分布などとの関連もあると思う。

○事務局

校区によって活動の偏りが見られ、それに連動してサポーターの数にも影響しており、バランスよく養成していくことが課題と考えている。人口分布については、すぐに正確には答えられない。

○委員

サポーターの数が多ければいいものとは限らないと思うが、数が多いところはそれだけの魅力があり、活動が活発なのだろうから、その原因を調べることがサポーター集めのヒントになるのではと思う。

○委員

校区別の人口も併記した方が資料としてわかりやすい。

３．計画の基本理念及び基本方針について

○事務局

資料２・資料３・ヘルスプロモーションの概念図について概要説明。

○委員

ヘルスプロモーションの図は、健康をみんなで一生懸命押している感じがすると常々思っており、健康が「重い」ように見えてしまうが、本当は違うと考えている。確かに、リスクを示すためには坂道を転がるイメージも重要だと思うが、ＷＨＯの図は少し違うと思うので、参考にして考え直してはどうか。

資料２の図は役割分担が明確でわかりやすい。これ以外に、交流の場の提供などといったキーワードが出てきてもいいと思う。また、ヘルスリテラシーという言葉を一般的になりつつあるため、活用したらいいかもしれない。

○委員

資料３について、健康寿命と平均寿命の差について、古賀市は国と比べて相当いい値になっている。それを今さら目標にするのはどうかと思う。

○委員

算定方法は国と同様か。

○事務局

国とは違う算定方法である。古賀市は要介護認定のデータを用いた算定方法のため、国のものとはかなり差があると考えている。

ただ、福岡県は後期高齢者用費が全国トップレベルで、その福岡県の中でも古賀市は高い方であるため、医療状況が反映されていないという事で高めに算出されている可能性がある。

国と同じ方法だと毎年調査をする必要もある。国の数値と比較するのでなく古賀市の中で比較し、健康寿命を伸ばしたい、平均寿命との差を縮めたいと考えている。

○委員

それであれば「国の算定基準とは違う」ことを明確に示すべきである。

○事務局

参考にさせて頂く。少し高めなのに敢えて出しているのは、市民を啓発する意味も含めている。

○委員

ヘルスプロモーションの図について、医療の役割が反映されていない。少なからず役割があると思うので入れてもらいたい。

資料３について、次世代もいずれ高齢者になるので、分けて記載するのではなく、全体としてイメージさせた方がいいのではないか。これだと、次世代（若者）と高齢者だけが健康づくりをすればい

い、と捉えられかねない。

○事務局

参考にさせて頂く。

４．「健康チャレンジ 10 か条（案）」について

○事務局

資料４・資料５について概要説明。

○委員

ワークショップに参加した人はどのような人たちか。

○事務局

健康づくり関連サポーターをはじめとした市民の皆さんである。

○委員

ワークショップに参加した方は意識の高い方だと思う。

人によって朝ご飯というものの捉え方も違う中、どこまで出来るのかが疑問。

○事務局

参加している方の率直な意見を聞き、課題と感じることも多かった。

○委員

運動する時間がないと言われる方が多いと思うし、自身もそうであり、悩ましいと思っている。

○委員

ワークショップに４回参加し、とても勉強になった。夜の部の方はやる気のある方も多く、積極的に意見を出して頂いた。大切なのはそうでない人（意識がそんなに高くない人）たちにどう広げていくかだと思う。参加された方を核として、地域で広がっていくことを望む。

○委員

市民の方から出た意見というのは非常に大切だと思う。自分たちの１０か条である、ということが大切なので、修正するのも結構だが、多少粗くてもいいのではないかと思う。

「たのしむ」の中に「いきがい」というワードが欲しいのだが・・・市民の方からそういう意見が出ないのなら仕方ないが。健康づくりの行きつく先はいきがいだと思う。

○事務局

市民の中からの意見で「いきがい」というものはあったと思う。１０か条には入らなくても、その概要などで紹介する場面もあると思う。

○委員

「歯のケア」について入れて欲しいと思う。

○委員

「しっかり」というのは「力強く」という意味に感じる。「しっかり」よりも「正しく」の方が適切だと思うし、歯だけではなく口全体のケアが必要だとわかるものにしてもらいたい。

○事務局

今回示しているのは案である。おひろめミーティングまでに修正の余地はあるが、ワークショップで出たワードは活かしたい。何か代わりになるワードはないだろうか。

○委員

歯科医の立場から言うと、信頼できる歯科医を見つけて、いい指導を受けて、正しいケアを行うことが一番だと思う。

○委員

歯に限らず、詳しい人と友達になるというのが大事。

情報交換できるような相手を見つける、健康に詳しい人がどこにいるか知るという形も良いのではないか。

○委員
当初は１００人も集まるのか心配だったが、皆さんの努力のおかげで盛況に終わったようで安心している。ただ、一部のことにだけ焦点が当てられてしまっているような印象を受ける。例えば、野菜を食べるというのは確かに重要だが、それはバランスよく食べるという中の一部である。
○事務局
１０個ですべてが網羅できるとは考えていない。そのため、説明などの部分で盛り込むことを考えている。
○委員
１０か条のポンチ絵のようなものを作って、そこに要素として盛り込むのもいいかもしれない。
○委員
「ニコニコペース」のように、市が作る公表される資料に「まごたちわやさしい」など誰かが言った（提唱した）フレーズを使うのは問題となるかもしれないので、よく確認した方がいい。
最近は、座る時間が長いことで病気になる、ということも研究でわかっている。こういうことも盛り込んでもいいかもしれない。
○事務局
貴重なご意見、参考にさせて頂く。
○委員
今回の１０か条は、高齢者向けの印象を受ける。小中高生などにこの１０か条がしっくりくるものだろうか。
○事務局
ワークショップの中では世代別にしようかという意見もあったが、子どもから高齢者まで正しい生活習慣を継続していくことが健康寿命の延伸に繋がるという考えから、高齢者も若い世代も同じキーワードに向かって取り組んでいくというのも大切だと考え、今回の１０か条となった。
他自治体でも同様の１０か条が策定されており、一部には子供向けの言い回しにしているところもある。しかし全く違う１０か条が存在する訳ではない。
○委員
今回は大人が考えた１０か条であるが、今後は子供たちに選んでもらうなどしてもいいのではないかと思う。それも一つの健康教育になると思う。

５．その他
特になし

以上